

「アジア・フィランソロピー連携促進事業」

海外・国際事業担当者（P0）勉強会

2025. 5. 28

助成財団センター 渡辺 元・青尾 謙

連絡先：aoo@jfc.or.jp

1. 目的

本勉強会は、（公財）日本財団から（公財）助成財団センターが受託した「アジア・フィランソロピー連携促進事業」の一環として開催するものである。本勉強会では日本財団並びに他助成組織の中堅・若手層を中心とした海外・国際事業担当者（プログラムオフィサー、P0）を主な対象として、年間5回の開催を通じて、以下の目的を達成することを目指す。

- 参加者がアジアを中心とした海外フィランソロピーの新たなプレイヤーやネットワーク、またその事業内容について知識を得る
- 参加した各助成組織のP0の横のつながり、更にアジア・フィランソロピー会議（APHIC）等の機会を通じた海外組織との交流を通じて知見を広める
- 参加者が学んだことをもとに、時代の変化に即した新しいプログラムや業務を考えることができる

2. 実施内容

（1）前提

現在、助成財団センターでは「助成実務セミナー」として4回で①助成事業の基礎知識、②助成事業の運営（公募・選考委員会形式を中心に）、③助成後のフォローアップ活動、④助成事業の策定について講義を行っている。本勉強会の内容はこれらと重複せず、海外・国際事業担当P0に特化した内容とする。

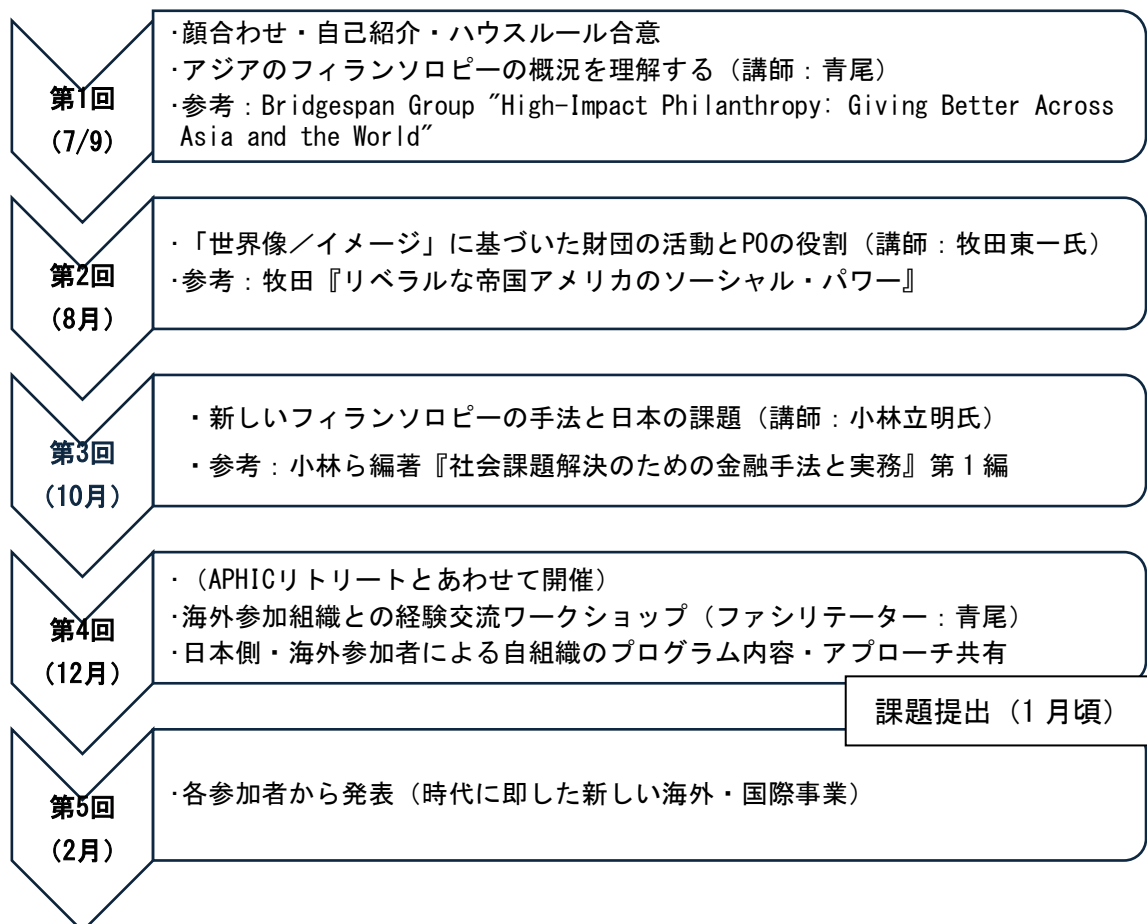
（2）年間計画（下図ご参照）

- 本勉強会は対面で実施し、ほぼ2か月ごと（12月のAPHIC海外参加者とのワークショップ含む）で計5回として計画する。ただし4回目（APHICリトリート）は参加できない人が出ることを前提とし、欠席しても支障がないよう計画する。
- 全体の流れとしては、第1回で主にアジアにおける財団活動の新しい潮流の概況を理解し、第2回（牧田先生）で海外助成活動における「望ましい世界観／イメージ」の果たす意味と、その中におけるP0の役割について理解する。第3回（小林先生）で財団の取りうる様々な手法についてより詳細に学び、第4回APHICリトリートのワークショップを経て、2026年1月頃に各自の考える、時代の変化に即した新たな海外・国際

プログラム案を提出する。最終の第 5 回では各参加者から新プログラム案の発表を行う。

- 本勉強会では、ハウスルールの合意等を通じて、参加者が安心して課題を共有したり、提案を述べられるような「安全な場」作りに留意する。その上で各自が感じている課題等についても共有し、互いに助言を受けられるような環境作りを目指す。

(図：本勉強会の年間計画)



3. その他注意事項

- 本勉強会への参加者は、業務等で特に支障がない限り、第 1 回から第 5 回までの全回出席することとする（ただし、第 4 回の APHIC リトリートでのワークショップを除く）。参加者は助成財団センター会員組織を優先する。参加人数に余裕がある場合、非会員組織からの参加を認める。
- 参加費は無料だが、参加者の所属組織においては本勉強会出席を認め、課題に対して上席者がフィードバックを行う等のサポートができることが望ましい。なお一組織からの参加者は日本財団を除き、2 名までとする。

(参考文献)

(1) 英語文献

- Anand, P. U., and Hayling, C. (2014) *Levers for Change: Philanthropy in select South East Asian Countries*. LCSi, SMU.
- Asia Philanthropy Circle (2022a) *Future of Asian Philanthropy Volume 1: Scenarios for Asia in 2050*. APC.
- Asia Philanthropy Circle (2022b) *Future of Asian Philanthropy Volume 2: Strategies for a better future*. APC.
- Bracach, J. et al. (2024) "High-Impact Philanthropy: Giving Better Across Asia and the World" Executive Summary. The Bridgespan Group.
- Institute of Philanthropy and McKinsey & Company (2024) "Examining Trust and Measurement in Asian Philanthropy". McKinsey & Company.
- Kearney (2024) "The Rising of Cross-border Philanthropy in Asia". Kearney.
- Lien, L. (2024) *Observations on the Essence of Asian Philanthropy*. APC.
- Lien Centre for Social Innovation (2014) *From Charity to Change: Social investment in selected Southeast Asian countries*. LCSi, SMU.
- Milner, A., Emerhi, E., Shnief, H. A., and Chanchani, M. (2023) "The Future of Philanthropy", *Alliance*, June 2023.
- Sasakawa Peace Foundation (2024) "Triple Ripple: Unlocking the Power of Catalytic Philanthropy in Asia". SPF
- Tan, P., and Lam, S.-S. (2018) *Impact Investments by Foundations in Singapore and Hong Kong*. ACSEP, NUS.

(2) 日本語文献

- 青尾謙 (2018) 「アジア共通の社会課題解決に向けた市民社会の役割—次世代リーダー協働のためのネットワーク形成」. 平成 29 年度国際交流基金アジアフェローシップ報告書.
- 小林立明 (2013) 「国際グラント・メイキングの課題と展望—グローバル・フィランソロピー時代における助成財団の新たな役割」. 笹川平和財団委託研究調査報告書.
- 小林立明・樽本哲・若林朋子・脇坂誠也編著 (2024) 『社会課題解決のための金融手法と実務—寄付・助成から革新的フィランソロピーへ』. 金融財政事情研究会.
- L. M. サラモン著、小林立明訳 (2016) 『フィランソロピーのニューフロンティア—社会的インパクト投資の新たな手法と課題』. ミネルヴァ書房.
- 社会変革推進財団 (2020) 『新しいフィランソロピーを発展させるエコシステムに関する調査—富裕層の意思ある資産を社会に生かす』. 一般財団法人社会変革推進財団調査報告書, SIIF.
- 福祉医療機構 (2008) 「わが国の市民活動分野における助成活動に携わるプログラム・オフィサーならびに募金活動に携わるファンドレイザー等の専門職養成・研修プログラム策定に向けた(基礎的な)調査研究事業 報告書」. 福祉医療機構.
- 牧田東一 (2024) 『リベラルな帝国アメリカのソーシャル・パワー—フォード財団と戦後国際開発レジーム形成』. 明石書店.